

事業評価結果(総合評価)

事業採択の前提条件	
<input checked="" type="checkbox"/> 便益が費用を上回っている <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施環境が整っている	

費用便益分析	B/C		(参考)	EIRR	総費用	599億円	総便益	667億円	感度分析	基準年
	(参考)	[4%]	1.1 (1.4)		4.4% (5.7%)	事業費: 589億円 維持管理費: 4.7億円 更新費: 5.1億円	走行時間短縮便益: 561億円 走行経費減少便益: 99億円 交通事故減少便益: 6.5億円	(参考) 時間信頼性向上便益: - 億円 CO2排出削減便益: - 億円		

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。
 ※B/Cは、高松環状道路4kmと高松空港連絡道路5km(合計9km)を対象とした場合の値、()書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。
 ※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。([]内は社会的割引率の値)

事業の影響	評価項目		評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	○	交通の転換により、慢性的な渋滞が発生している並行幹線道路や周辺道路の混雑が緩和。 【交通渋滞の緩和】 主要渋滞箇所4箇所(上天神町交差点、西永井交差点、三名町交差点、円座町交差点)
事故対策		○	本路線への交通転換により、並行する幹線道路の事故減少が見込まれる。	
歩行空間		—	注目すべき影響はない。	
社会全体への影響	住民生活	○	高松自動車道と一体となり、第三次救急医療施設(香川大学医学部付属病院)への搬送時間の短縮に寄与する。	
	地域経済	◎	<ul style="list-style-type: none"> 四国地域新広域道路交通ビジョンにおける基本方針の「空港・港湾等の交通拠点へのアクセス強化」に対応。 高松空港と高松自動車道のアクセス時間の短縮や、定時性の確保により、空港機能の増改修を行っている高松空港の更なる利用者増加を支える。(高松空港の利用者は令和6年度に過去最高の211万人を記録) 人流・物流の定時性、速達性が向上することで、経済活動の活性化に寄与する。 	
	災害	◎	<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害時の緊急輸送道路として高速道路と空港を直結するルートとなる。 既存の路線(国道193号)とダブルネットワークを形成することにより、災害時や事故時のリダンダンシーを確保。 	
	環境	—	注目すべき影響はない。	
	地域社会	◎	高松空港と高松自動車道とのアクセス向上により、高松自動車道を利用した交流人口の拡大に寄与する。	

事業実施環境	
<ul style="list-style-type: none"> 高松市都市計画マスタープラン(R7.6改定)における交通関連施設の整備方針として、高松空港と市街地とを結ぶ本路線の整備の促進が位置付けられている。 地元高松市より早期整備の要望を受けている。 	